

平成 30 年度

試 験 曲

音楽学部個別学力検査等

<一般入試>

<推薦入試>



沖縄県立芸術大学

目次

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	1
募集人員	2
I 一般入試	
1 試験科目一覧	3
2 出願方法	3
3 併願について	4
4 試験内容及び試験曲等	
<<専攻試験>>	
(1) 音楽表現専攻声乐コース	5
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	6
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	7
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	9
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	13
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	13
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	13
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	14
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	14
(10) 社会人入試（琉球芸能専攻）	14
<<音楽に関する基礎能力検査>>	
(1) 楽典	15
(2) 聴音	15
(3) 新曲視唱	15
(4) 副科ピアノ	15
(5) 初見視奏	15
(6) 音楽又は舞踊の実技	15
(7) 初見視唱	15
5 平成 30 年度個別学力検査等日程表	16
II 推薦入試	
1 試験科目一覧	17
2 出願方法	17
3 試験内容及び試験曲等	
<<専攻試験>>	
(1) 音楽表現専攻声乐コース	18
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	18
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	18
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	18
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	19
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	19
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	19
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	19
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	19
<<音楽に関する基礎能力検査>>	
(1) 楽典	20
(2) 聴音	20
(3) 新曲視唱	20
(4) 副科ピアノ	20
(5) 音楽又は舞踊の実技	20
(6) 初見視唱	20
4 平成 30 年度推薦入試日程表	20
III 入験問題例	21

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の養成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・芸能の各分野における専門的な知識と実演、創作等の技能を修得していること。
- 2 大学の学修で養った汎用的基礎能力を活かし、主体的に研究を継続し、それらを社会に発信できる能力を備えていること。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽学部では、沖縄の地で育まれた伝統芸能とともに、世界の芸術音楽を体系的に教授し、将来、実演家・教育者・研究者ならびに広く音楽芸術分野に貢献できる人材の育成をめざします。

上記の人材を育成することを目標として、大学カリキュラム・ポリシーを基本に次のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 少人数による教育
- 2 専門教育の4年間にわたる段階的履修
- 3 専門分野の実技と理論における体系的・横断的な授業科目の編成
- 4 全学教育科目における芸術諸分野及び教養に関する教育
- 5 地域社会との連携を図り社会との関係を学ぶ科目の提供
- 6 学生の多様な関心に対応し学習できる選択科目の設定

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で学習目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

大学及び学部の教育理念に基づき、音楽学部では、専門分野における基礎的な知識・技術に加え、大学の学修に必要な基礎的学力と広い視野を備え、将来、伝統芸術の継承発展と新たな芸術創造に寄与できる人材を求めています。

【求める人材】

- 1 大学での学修に対する熱意をもち、音楽家、実演家、研究者又は教育者として活躍したい人
- 2 基礎的知識を基に音楽に対する視野を広げ、現代社会との関わりを意識している人
- 3 沖縄に関心があり、現代社会に向けて芸術創造の営みを発信する意欲ある人

【選抜試験の実施】

- 1 一般入試では、大学入試センター試験で国語及び外国語を受験科目を課すとともに、個別学力検査等では、専攻試験（実技検査、小論文等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、副科ピアノ等）を実施しています。
- 2 推薦入試では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、視唱、副科ピアノ等）、および面接を課しています。
- 3 社会人入試では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課しています。

いずれの入試においても、学部及び専攻・コースのアドミッション・ポリシーを基に実施し、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

募集人員

学 部	学 科	専 攻	コ ー ス	定 員	募 集 人 員				
					一 般 入 試		推 薦 入 試		社 会 人 入 試
					前 期 日 程	後 期 日 程	県 内 枠	全 国 枠	
音楽学部	音楽学科	音楽表現	声 楽	23	17	0	3	3	0
			ピ ア ノ						
			弦 楽						
			管 打 楽						
		作 曲 理 論							
	音楽文化	沖 縄 文 化	7	4	0	2	1	0	
		音 楽 学							
	琉球芸能	琉球古典音楽	10	5	0	4	1	若干名	
		琉球舞踊組踊							
	計				40	26	0	9	5

注 1. 推薦入試の手続き完了者が募集人員に満たない場合は、満たない分の募集人員を前期日程の募集人員に加える。

注 2. 推薦入試の県内、全国それぞれの枠で定員に満たなかった人員は他方の枠に算入することがある。

注 3. 社会人入試の募集人員は、一般入試の前期日程の募集人員に含む。

<一般入試>

I 一般入試

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・ コース名		専攻試験 (第1次試験)				音楽に関する基礎能力検査 (第2次試験)						
		実技 検査	コー ル ポ ン ゲ ン	初見 演技	小論文	楽典 (注3)	聴音	新曲 視唱	副科 ピアノ	初見 視奏	音楽又 は舞踊 の実技	初見 視唱
音楽 表現	声楽	◎	◎			◎	○	○	◎			
	ピアノ	◎				◎	◎			◎		
	弦楽	◎				◎	○	○	◎			
	管打楽	◎				◎	○	○	◎			
	作曲理論	◎ (口述試験含む)				◎	◎		◎			
音楽 文化	沖縄文化				◎ (口述試験含む)	◎					◎	
	音楽学				◎ (口述試験含む)	◎	○	○	◎			
琉球 芸能	琉球古典音楽	◎ (調弦含む)			※ (口述試験含む)	◎						
	琉球舞踊組踊	◎		◎	※ (口述試験含む)	○						○

注1. ◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目。○印は、出願時に、いずれか1つの科目を選択する。※印は社会人入試のみ（但し音楽に関する基礎能力検査は受験しない）

注2. 各専攻の個別学力検査等（実技検査を含む）については、第1次試験と第2次試験に分けて実施するが、第2次試験については、第1次試験合格者についてのみ実施する。

注3. 沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、他専攻の楽典とは別問題とする。

2 出願方法

(1) 声楽コース志願者は、次の中から1声種を選択し、出願すること。

ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(2) 弦楽および管打楽コース志願者は、次の楽器の中から1種類を選択し、出願すること。

（弦楽器）ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

（管打楽器）フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット
テナートロンボーン、バストロンボーン、チューバ、打楽器

(3) 琉球古典音楽コース志願者は、次の中から1種を選択し、出願すること。

歌三線、琉球箏曲

(4) 弦楽コースのヴァイオリンを第1志望とする入学志願者は、第2志望としてヴィオラを受験することができる。その場合には、第1志望の試験科目の他に第2志望の実技検査を受検しなければならない。

3 併願について

音楽学部への出願は、志願する専攻・コース（声種・楽器）を1つに限るが、以下の表に示す限りにおいては併願が可能である。

【併願可能な専攻・コース】

第2志望		音楽表現					音楽文化		琉球芸能	
		声楽	ピアノ	弦楽	管打楽	作曲理論	沖縄文化	音楽学	琉球 古典音楽	琉球 舞踊組踊
第1志望										
	音楽表現	声楽					○	○	○	
ピアノ		○				○	○	○		
弦楽						○	○	○		
管打楽						○	○	○		
作曲理論		○					○	○		
音楽文化	沖縄文化							○	○	○
	音楽学	○					○			
琉球芸能	琉球古典音楽						○			○
	琉球舞踊組踊						○		○	

注：併願の場合には、第1志望の試験科目（第1次試験、第2次試験）に加えて、第2志望の第1次試験を受験しなければならない。

ただし、

- ① 音楽学コースと沖縄文化コースを併願する場合は、第2次試験では音楽学コースの試験科目を受験すること。
- ② 第2志望で作曲理論コースを併願する場合は、第2次試験では作曲理論コースの試験科目を受験すること。（ピアノコースは除く）
- ③ 第2志望で琉球古典音楽コースを併願する場合は、第2次試験では琉球古典音楽コースの試験科目を受験すること。

4 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声楽コース

注意事項：課題曲、自由曲とも暗譜で歌うこと。歌詞は原語で歌うこと（ただし、曲によっては通例歌われている他の外国語で歌うことも可）。

伴奏者は本学で用意する。ただし、事前の伴奏合わせはない。

時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

＜課題曲＞

下記の課題曲17曲から任意の3曲を選択し、入学願書に記入すること。

提出した3曲の中から試験当日、受験者本人のくじ引きにより1曲を歌う。

＜自由曲＞

課題曲以外の任意の曲、ただし5分以内とする。歌詞は原語で歌うこと。

＜コールユーブンゲン＞

F.Wüllner：Chorübungen No.30より、No.71までの中から、当日1曲を指定する。

移動ド、固定ド、のどちらで歌ってもよい。

課 題 曲

①	M.A.Cesti	Intorno all'idol mio	(c-moll, d-moll, e-moll, f-moll)
②	G.B.Pergolesi	Se tu m'ami	(es-moll, f-moll, g-moll)
③	A.Scarlatti	Se tu della mia morte	(e-moll, g-moll, f-moll)
④	A.Scarlatti	Già il sole dal Gange	(G-dur, As-dur, B-dur)
⑤	A.Scarlatti	Le violette	(F-dur, G-dur, B-dur, H-dur)
⑥	A.Scarlatti	Sento nel core	(d-moll, es-moll, f-moll, g-moll)
⑦	F.Gasparini	Lasciar d'amarti	(d-moll, f-moll, g-moll)
⑧	F.Durante	Vergin, tutto amor	(h-moll, c-moll, d-moll)
⑨	W.A.Mozart	Das Veilchen	(E-dur, G-dur)
⑩	F.Schubert	An die Musik	(B-dur, C-dur, D-dur)
⑪	F.Schubert	Frühlingsglaube	(F-dur, G-dur, As-dur)
⑫	R.Schumann	Die Lotosblume	(Des-dur, Es-dur, F-dur)
⑬	弘田龍太郎	浜千鳥	(C-dur, Es-dur)
⑭	瀧廉太郎	荒城の月	(c-moll, d-moll)
⑮	山田耕筰	かやの木山	(C-dur, D-dur)
⑯	平井康三郎	ゆりかご	(E-dur)
⑰	信時潔	北秋の	(Des-dur, D-dur)

* () 内の調は、本学が用意する伴奏用楽譜の調である。他の調で歌う場合は、希望の調の伴奏用楽譜を願書とともに提出すること。

* イタリア歌曲は外国版を使用する時は、伴奏用楽譜を提出すること。

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

注意事項：課題曲はA,B,Cの順に演奏し、すべて暗譜で演奏すること。

繰り返しは省略する。時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

下記の課題曲A,B,Cについてそれぞれ任意の曲を1曲選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<課題曲A>

J.S.Bach：平均律クラヴィア曲集第1巻または第2巻より任意の1曲
(プレリュードとフーガ)

<課題曲B>

F.Chopin または F.Liszt：練習曲より任意の1曲

<課題曲C>

L.v.Beethoven：ピアノ・ソナタ（Op.2-1～Op.90）より任意の第1楽章
(Op.27-1,Op.27-2,Op.49-1,Op.49-2,Op.79の5曲を除く)

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。
試験曲のうち、指定した版のある曲以外は、どの版を使用しても良い。
時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

Carl Flesch : Scale system より任意の調一つを選択。

5番（3オクターヴの音階 Tempo はJ=80~100）全部。

6番（3度の音階 Tempo は自由）冒頭4小節。

7番（6度の音階 Tempo は自由）冒頭4小節。

8番（8度の音階 Tempo は自由）冒頭4小節。

*フィンガリングは自由。

*スラー、リズムはC-durに準じること。ただし重音のスラーは一拍ずつのスラーで演奏すること。

<課題曲A>

以下の練習曲、または、これらと同等程度以上の練習曲から任意の1曲を選択。

R.Kreutzer : 42 Etudes (Peters 版)

*No.1,3,5を除く。リズムやスラーはオリジナルに準じること。

P.Rode : 24 Caprices

J.Dont : 24 Etudes and Caprices Op.35

<課題曲B>

任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章（カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したもののについては演奏すること）。

注. ヴァイオリンを第1志望とする志願者はヴィオラを第2志望とすることができる。

その場合、第2志望の実技試験も受験しなければならない。ヴィオラ試験として第1志望と同じ「音階」、「課題曲A」、「課題曲B」をヴァイオリンで演奏すること。

◆ヴィオラ

<音階>

C-dur の音階。Tempo は♩=80 以上

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。



<課題曲A>

R.Kreutzer : 42 Etudes より任意の1曲 (但しヴィオラ用の編曲) を選択。

<課題曲B>

任意のヴィオラ協奏曲より第1楽章 (カデンツァを除く)

◆チェロ

<課題曲A>

Sebastian Lee : Melodische und progressive Etüden Opus31 (SCHOTT 版)

40 MELODIC STUDIES Opus31 (INTERNATIONAL 版)

より任意の1曲を選択。

<課題曲B>

任意のチェロ協奏曲より第1楽章 (カデンツァを除く)

◆コントラバス

<課題曲A>

F.Simandl : 30 Etudes より任意の1曲を選択。

<課題曲B>

任意のコントラバス協奏曲より第1楽章 (カデンツァを除く)

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

注意事項：無伴奏で演奏すること。暗譜でなくてもよい。

時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

【木管楽器】

◆フルート

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① E.Koehler : 35 Exercises op.33 第2巻(12 Medium Difficult Exercises)より No. 1, 5, 6, 8, 10, 12
の中から1曲を当日指定する。(Carl Fischer 版)
- ② W.A.Mozart : Concerto in D major K314 より 第1楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆オーボエ

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F.W.Ferling : 48 Etudes op.31 より No.1~No.6 の中から1曲を当日指定する。(版は自由)
- ② J.Haydn : Concerto in C major Hob.VIIg:C1 より 第1楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆クラリネット

<音階>

R.Eichler : Scales for Clarinet 全長調の1番の中から演奏する。

調、アーティキュレーションは当日指定する。

(国立音楽大学教育出版部)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Rose : 32 Etudes より No.5~No.12 の中から 1 曲を当日指定する。(Leduc 版)
- ② C.M.v.Weber : Concertino für Klarinette und Orchester Es-dur Op.26 J.109
(Breitkopf & Härtel 版)

◆ファゴット

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① J.Weissenborn : Studies for Bassoon op.8 vol.2 よりNo.4,6,8,10,13,14 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A.L.Vivaldi : Concerto in a minor F8/7 RV497 より第 1 楽章 (Ricordi 版)

【金管楽器】

(共通課題)

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



◆ホルン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.3,6,9,13,15 の中から 1 曲を当日指定する。
(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② W.A.Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.3 Es-dur KV 447 より第 1 楽章
(カデンツァを除く、Breitkopf&Härtel 版)

◆トランペット

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.8,10,12,15,19 の中から 1 曲を当日指定する。
(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ③ G.F.Händel : Aria con Variazioni (Transcribed by Bernard Fitzgerald 版、繰り返しなし)

◆テナートロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.5,6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A.Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (版は自由)

◆バストロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。
(1 オクターヴ下げて演奏する、版は自由、繰り返しなし)
- ② A.Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (Reift 版)
※テナー用の原曲を完全 4 度低く移調したバス・トロンボーン用の編曲で演奏すること。

◆チューバ

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies より No.3,10,14,15,19,20 の中から 1 曲を当日指定する。
(Robert King 版、繰り返しなし)
- ② J.S.Bach : Air and Bourrée (W.J.Bell 編曲 Carl Fischer 版)
※使用楽器は、B♭、C、F 管のいずれかとする。

◆打楽器

打楽器 (A)、打楽器 (B) のどちらかを選択し入学願書に記入して届け出ること。

打楽器 (B) で受験する者は課題曲②の記号と曲名を入学願書に記入すること。

打楽器 (A) 小太鼓

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、七つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲>次の①、②を演奏する。

- ① W.F.Ludwig : Collection Drum Solos より 18~19 ページの中から数曲を当日指定する。
(Ludwig Music Publishing 版)
- ② A.J.Cirone : Portraits in Rhythm 50 Studies for Snare drum よりNo.3,13,19,31 の中から数曲を当日指定する。(YMM 版)

打楽器 (B) マリンバ

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲>次の①、②を演奏する。

- ① M.Goldenberg : Modern School for Xylophone,Marimba,Vibraphone 39 Etudes より V、XII、XV、XX から 1 曲を当日指定する。(Chappell & Co 版)
- ② J.S.Bach : Sonaten und Partiten für Violine Solo BWV1001-1006
イ、ロ、ハの中から任意の 1 曲を選択して演奏する。(版は自由)
イ : Sonata I より Adagio
ロ : Sonata I より Fuga Allegro
ハ : Partita III より Preludio

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<作曲実技>

和声課題の実施（所要時間2時間）。ソプラノ課題およびバス課題を四声体で実施する。

<口述試験>

実技試験で実施した和声課題に関する質疑を含め、音楽への意欲などを問う。
これまでの作曲作品の楽譜、演奏された録音媒体などを持参し、質疑等を行う。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

次の課題図書に基づいて音楽に関わるテーマを出題し、論述を求める。(90分)

平田オリザ『新しい広場をつくる——市民芸術概論綱要』（岩波書店）の中から第1章～第4章および第6章。

※課題図書は当日必ず持参すること。

<口述試験>

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書は当日必ず持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

次の課題図書に基づいて音楽に関わるテーマを出題し、論述を求める。(90分)

平田オリザ『新しい広場をつくる——市民芸術概論綱要』（岩波書店）の中から第1章～第4章および第6章。

※課題図書は当日必ず持参すること。

<口述試験>

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書は当日必ず持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

注意事項：課題曲、自由曲ともに暗譜で演奏すること。

◆歌三線

<調弦>

調子笛の音高に合わせて調弦すること。

<課題曲>

かぎやで風節、上り口説（1、2、3、8番）、秋の踊【道輪口説】（1、2、3、4番）

※上記3曲の中から1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

二揚調子の古典曲または二揚調子の古典民謡から任意の曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

◆琉球箏曲

<調弦>

あらかじめ調弦された巾、為、斗、十、九の音高をもとに本調子の調弦をすること。

<課題曲>

瀧落菅攪

<自由曲>

歌物の中から任意の1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

<課題曲>

かぎやで風、かせかけ

※上記2曲の中から1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

琉球舞踊又は八重山古典舞踊の中から任意の1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

なお、地謡用音源は<課題曲><自由曲>ともにカセットテープ・CD・MDいずれかの録音媒体を出願書類と一緒に提出すること。再生用機器等は大学側が準備する。

<初見演技>

試験当日に例示する古典女踊の基本的所作を模倣して実演する。

(10) 社会人入試（琉球芸能専攻）

<実技検査>

試験曲は一般入試と同様とする。

<小論文>

課題は試験当日に出題する。(90分)

<口述試験>

小論文についての口頭試問を行う。

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験・音楽表現専攻、音楽学コース (30 分)、沖縄文化コース、琉球芸能専攻 (40 分)

(2) 聴音

単旋律および四声体和声の聴音。

(3) 新曲視唱

単旋律の視唱。予見時間は 1 分 30 秒。

(4) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記の課題曲①～③の中から 1 曲を選択し、入学願書に記入して届けること。

音階および課題曲を演奏すること。

＜音階＞

ハノン教則本第 39 番より \sharp \flat 記号 3 つまでの長調または短調の音階から試験当日受験者本人のくじ引きにより演奏する。Tempo $J=80$ 以上

長調は繰り返しなしで、カデンツをつけて終わる。

短調は和声的短音階を 1 回弾いた後、カデンツをつけずに続けて旋律的短音階を 1 回弾き、カデンツをつけて終わる。

＜課題曲＞

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の 1 曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の 1 つの楽章。

(ベートーヴェンを選択する場合は Op.101～111 は除く)。ただし緩徐楽章は除く。

③ ツェルニー：30、40、50 番練習曲より任意の 1 曲

(5) 初見視奏

簡易な曲の視奏。試験室入室前に 4 分程度の予見時間がある。

(6) 音楽又は舞踊の実技

音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

演奏時間は 3 分～5 分程度とし、全体の持ち時間は準備も含めて 6 分以内とする。

(注意事項)

演奏は伴奏なしとする。

本学でピアノ、打楽器、マリンバは用意するが、それ以外の楽器は持参すること。ただし、コントラバスは本学で準備したものを使用してもよい。

舞踊に用いる録音媒体 (CD 等) は事前に再生について確認をした上で出願時に提出すること。

(7) 初見視唱

試験当日に例示する台詞の唱え (執心鐘入の中から抜粋)。

5 平成30年度一般入試個別学力検査等日程表

専攻・ コース 日程	音楽表現					音楽文化		琉球芸能		
	声楽	ピアノ	弦楽	管打楽	作曲理論	沖縄文化	音楽学	琉球 古典音楽	琉球 舞踊組踊	
平成30年 2月25日 (日)	課題曲 自由曲 コル・ブナゲン				音階 課題曲	作曲実技	小論文	小論文		課題曲 自由曲 初見演技
2月26日 (月)		課題曲A 課題曲B 課題曲C	音階 課題曲			口述試験	口述試験	口述試験	調弦 課題曲 自由曲	
	一 次 発 表									
2月27日 (火)	楽典 聴音又は 新曲視唱	楽典 聴音	楽典 聴音又は新曲視唱		楽典 聴音	楽典	楽典 聴音又は 新曲視唱	楽典	楽典又は 初見視唱	
	副科ピアノ	初見視奏	副科ピアノ			音楽又は 舞踊の実技	副科ピアノ	※小論文		
								※口述試験		

注1：この日程は予定であり、出願状況によって変わることがある。

注2：※印は社会人入試のみ（但し、楽典は受験しない）

<推薦入試>

Ⅱ 推薦入試

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・ コース名		専攻試験 (第1次試験)				音楽に関する基礎能力検査 (第2次試験)						面接
		実技 検査	コー ル コ ン プ ラ ン	初見 演技	小論文	楽典 (注2)	聴音	新曲 視唱	副科 ピアノ	音楽又 は舞踊 の実技	初見 視唱	
音楽 表現	声楽	◎	◎			◎	○	○	◎			◎
	ピアノ	◎				◎	◎					◎
	弦楽	◎				◎	○	○	◎			◎
	管打楽	◎				◎	○	○	◎			◎
	作曲理論	◎ (口述試験含む)							◎	◎		
音楽 文化	沖縄文化				◎ (口述試験含む)	◎				◎		
	音楽学				◎ (口述試験含む)			◎	◎			
琉球 芸能	琉球古典音楽	◎ (調弦含む)				◎						
	琉球舞踊組踊	◎		◎		○					○	

注1. ◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目。○印は、出願時に、いずれか1つの科目を選択する。

注2. 沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、他専攻の楽典とは別問題とする。

【予告】ピアノコースでは、平成31年度入試から、入試科目に初見視奏を課す予定である。

2 出願方法

(1) 声楽コース志願者は、次の中から1声種を選択し、出願すること。

ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(2) 弦楽および管打楽コース志願者は、次の楽器の中から1種類を選択し、出願すること。

(弦楽器) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽器) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット

テナートロンボーン、バストロンボーン、チューバ、打楽器

(3) 琉球古典音楽コース志願者は、次の中から1種を選択し、出願すること。

歌三線、琉球箏曲

3 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声楽コース

一般入試に同じ

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

一般入試の課題曲 A,B,C に同じ

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。
時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

一般入試に同じ

<課題曲>

任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章（カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したものについては演奏すること。）

◆ヴィオラ

<音階>

一般入試に同じ

<課題曲>

任意のヴィオラ協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

◆チェロ

<課題曲A>

一般入試に同じ

<課題曲B>

任意のチェロ協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

◆コントラバス

<課題曲A>

一般入試に同じ

<課題曲B>

任意のコントラバス協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

一般入試に同じ

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<作曲作品>

受験者自身の作曲作品の楽譜（演奏された録音媒体があれば添付する。）

※作品等は試験当日に持参すること。

<口述試験>

提出された作品をもとに質疑を行い、また音楽への意欲などを問う。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

テーマ「現代の社会と音楽（舞踊）との関わりについて論じなさい」

原稿用紙（400字詰め）5枚程度とし、手書きであること。

※小論文は、出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

小論文の内容等を問う。

提出した小論文のコピーを試験当日に持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

テーマ「現代の社会と音楽（舞踊）との関わりについて論じなさい」

原稿用紙（400字詰め）5枚程度とし、手書きであること。

※小論文は、出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

小論文の内容等を問う。

提出した小論文のコピーを試験当日に持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

一般入試に同じ

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

一般入試に同じ

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験・・音楽表現専攻 (30分), 沖縄文化コース、琉球芸能専攻 (40分)

(2) 聴音

一般入試に同じ

(3) 新曲視唱

一般入試に同じ

(4) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記①～③の中から1曲を選び演奏する。

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の1曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の1つの楽章
(ベートーヴェンを選択する場合はOp.101～111は除く) ただし緩徐楽章は除く。

③ ツェルニー：30、40、50番練習曲より任意の1曲

(5) 音楽又は舞踊の実技

一般入試に同じ

(6) 初見視唱

一般入試に同じ

4 平成30年度推薦入学試験日程表

専攻・ コース 日程	音楽表現				音楽文化			琉球芸能	
	声乐	ピアノ	弦楽	管打楽	作曲理論	沖縄文化	音楽学	琉球古典音楽	琉球舞踊組踊
平成29年 11月19日 (日)	楽典 聴音又は 新曲視唱	楽典 聴音	楽典 聴音又は新曲視唱		副科ピアノ	楽典	副科ピアノ	調弦 課題曲 自由曲	課題曲 自由曲 初見演技
	課題曲 自由曲 ユルユルソング	課題曲A 課題曲B 課題曲C	音階 課題曲	音階 課題曲	新曲視唱	音楽又は 舞踊の実技	新曲視唱	楽典	楽典又は 初見視唱
	副科ピアノ		副科ピアノ		口述試験				
	面接								

注：この日程は予定であり、出願状況によって変わることがある。

<入試問題例>

Ⅲ 入試問題例

《試験科目 目次》

* 一般入試

楽典（音楽表現専攻、音楽文化専攻音楽学コース）	・ ・ ・ ・ ・	22
楽典（琉球芸能専攻、音楽文化専攻沖縄文化コース）	・ ・ ・ ・ ・	23
聴音	・ ・ ・ ・ ・	24
新曲視唱	・ ・ ・ ・ ・	25
初見視奏	・ ・ ・ ・ ・	26
作曲実技	・ ・ ・ ・ ・	27
小論文（音楽文化専攻）	・ ・ ・ ・ ・	28
小論文（琉球芸能専攻社会人入試）	・ ・ ・ ・ ・	29
初見視唱	・ ・ ・ ・ ・	32

* 推薦入試

楽典（音楽表現専攻、音楽文化専攻音楽学コース）	・ ・ ・ ・ ・	33
楽典（琉球芸能専攻、音楽文化専攻沖縄文化コース）	・ ・ ・ ・ ・	34
聴音	・ ・ ・ ・ ・	35
新曲視唱	・ ・ ・ ・ ・	36

楽典（琉球芸能専攻、音楽文化専攻沖縄文化コース）

I 次の楽譜は、スコット夫人作曲《アニー・ローリー》の旋律である。以下の問いに答えなさい。

- (1) この曲は、何拍子か。次の中から選びなさい。
4分の3拍子 8分の6拍子 4分の2拍子 4分の4拍子
- (2) この曲の平行調は、何調か。次の中から選びなさい。
イ短調 ハ長調 ハ短調 イ長調 ホ長調 ホ短調
- (3) あ、い、う、え の音程はそれぞれ何度か。解答用紙の例にならって答えなさい。
- (4) か、き の記号の読みと意味を答えなさい。
- (5) この曲の さ の部分にふさわしい和音の組み合わせを次のコードネームの中から選び、記号で答えなさい。
ア C-F-C イ C-G-C ウ G-C-G エ E-D-Cm
- (6) この曲を J=80 の速度で演奏すると、全曲演奏するにはどのくらいの時間がかかるか。計算式を書いた上で、所要時間を答えなさい。（速度の変化は無視すること）

(7) この楽譜の4段目を全音高い調に移調し、解答用紙の五線に書きなさい。その際、ト音記号と調号を書き入れること。

II 次の問いに答えなさい。

(1) 解答用紙の五線に、次の音階の上行形を、全音符で調号を使わずに書きなさい。

ア ホ短調の和声的短音階 イ へ長調

(2) 解答用紙の五線にト音記号を書き入れたうえで、次のコードネームで示した和音を全音符で書きなさい。

ア Cm イ G7

III 次の9つの問いの中から、5つを選んで答えなさい。なお、選んだ問いの番号を解答用紙の()に書くこと。

- (1) D.C. の読みと意味を書きなさい。
- (2) 4分音符を3等分する3連符を書きなさい。
- (3) 次のオーケストラに使われる弦楽器を、音域の高い順に並べて答えなさい。
チェロ ヴァイオリン コントラバス ヴィオラ
- (4) 音楽、絵画、小説などの作品を作った人が持っている権利を何と呼ぶか。次の中からふさわしいもの一つを選んで答えなさい。
音楽療法 知る権利 著作権 コンサートマスター 基本的人権
- (5) 次の中から、沖縄の郷土芸能を一つ選んで答えなさい。
長崎くんち 祇園祭 早稲峰神楽 エイサー 阿波踊り
- (6) 三線の二揚調子において、中絃を G (ト音) とすると、女絃はどの高さの音になるか。音名で答えなさい。
- (7) 琉球琴曲の本調子において、五の絃と六の絃の音程は何度か。I (3)の例にならって答えなさい。
- (8) 沖縄の伝統芸能・組踊の演目名を一つ答えなさい。
- (9) 《かぎやで風節》の歌詞を書きなさい。解答欄に書ききれない場合は、余白に書くこと。

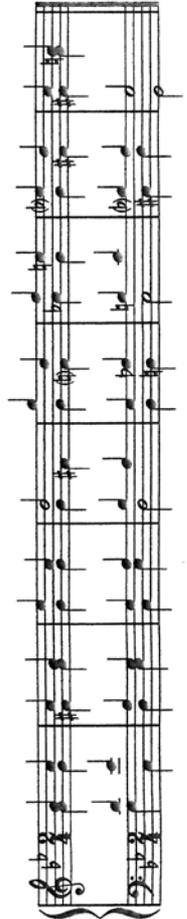
旋律 G-dur 4分の4拍子 8小節



旋律 d-moll 8分の6拍子 8小節



四声体和声 g-moll 4分の2拍子



聴音 実施方法

- ① 旋律 G-dur 4分の4拍子 8小節
実施方法

主和音と拍子
通奏1回
前半3回
通奏1回
後半3回
通奏1回

- ② 旋律 d-moll 8分の6拍子 8小節
実施方法

主和音と拍子
通奏1回
前半3回
通奏1回
後半3回
通奏1回

- ③ 四声体和声 g-moll 4分の2拍子 8小節
実施方法

主和音と拍子
通奏7回

一般入試 新曲視唱出題例

声乐コース・弦楽コース・管打楽コース・音楽学コースは、「聴音」「新曲視唱」のいずれかを選択すること。

1. 予見前に曲の主和音を与える。(予見時間1分30秒)
2. 視唱の前に、曲の調の和声短音階上行形を歌うこと。

$\text{♩} = 50 \text{ ca.}$

mf

legato

f *sub.p* *senza rall.*

4

7

10

3

初見視奏 (ピアノコース)

Tempo di valse

Musical score for 'Tempo di valse' in 3/4 time. The score consists of five systems of piano accompaniment. The first system starts with a piano (*p*) dynamic. The second system has a measure number of 7. The third system has a measure number of 12. The fourth system has a measure number of 17 and includes a mezzo-forte (*mp*) dynamic. The fifth system has a measure number of 22 and includes an *allarg.* (allargando) instruction. The music features a waltz-like melody in the right hand and a supporting bass line in the left hand.

a tempo

Musical score for 'a tempo' in 3/4 time. The score consists of five systems of piano accompaniment. The first system starts with a *meno f* dynamic and a measure number of 27. The second system has a measure number of 31. The third system has a measure number of 35. The fourth system has a measure number of 39 and includes a *poco a poco rit.* (poco a poco ritardando) instruction and a *sub. p* (subito piano) dynamic. The fifth system has a measure number of 44 and includes a *Tempo I* instruction. The music features a waltz-like melody in the right hand and a supporting bass line in the left hand.

平成29年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般入学試験

作曲実技

次のバス譜題、ソプラノ課題を四声体として実施しなさい。(2時間)

平成二十九年 度 沖 縄 県 立 芸 術 大 学 音 楽 学 部 入 学 試 験 (前 期 日 程)

小論文

(音 楽 文 化 専 攻 沖 縄 文 化 コー ス ・ 音 楽 学 コー ス)

ある歌に作者が込めた意図と、その歌が継承される中で生まれる新たな意味を、現代に生きる私たちはいかに受けとめるべきか。課題図書の中から具体的な例をあげて、音楽を学ぶ意義について考えを述べなさい (1 0 0 0 字 程 度) 。

課題図書 細見和之 『ポツンミュージックで社会科』 みすず書房

二〇一六年度入学試験問題（社会人選抜）小論文

問題

資料文は大城立裕「沖縄と演劇―その伝統と変革―」（『沖縄演劇の魅力』沖縄タイムス社、一九九〇年、初出は一九七一年）の第3項 第4項である。資料文を読んで、次の各問に答えなさい。

問 1

傍線部分「古典の創造的あるいは発展的継承」について、わかりやすく言い直した部分がある。本文の中から四十字以内で抜き出して、解答欄に書きなさい。

問 2

「古典の創造的あるいは発展的継承」に関する著者の主張について、本文の一部を引用しながら、それに対するあなたの意見をみずからの経験をもまえて千二百字程度で論じなさい。

資料文

3

数年前に沖縄歌劇が国立劇場で上演されたとき、戸部銀造という劇評家がこれを酷評して書いた――「通俗きわる。浅草のテノ助芝居とかわからない。言葉がわからないから皆おもしろがつているが、言葉がわかったら、愛想をつかすことであろう」（原典「テノ助芝居」が手元にないで、表現はこの通りでないことを、おゆるしねがいたい）。この発言にたいして私が根本的に疑問を感じるのは、「言葉がわかっただけというが、いったい東京人が沖縄の言葉をわかるとはどういうことか」ということである。翻訳を聞いてわかる範囲のイメージを突きぬけたところに、じつは私のいう沖縄センチメントはあるのであって、どのような通俗観念にもとづくセリフでも、私たちの胸にじんといびいてくるものがある（どの国語でもそうであろう）。

むしろ、戸部がいつていることもわからないではないのであって、彼が理解し、否定したがっている範囲のイメージについては、その非文学性をどうにかならないか、と私たちが常に考えてはいるし、この愛着と批判の両極をたえずゆれ動いているのが、私たち沖縄芝居をまじめに考える知識人のところである。

ただ、かの国立劇場で上演した歌劇が満足すべき出来栄であつたかどうか、別にあたらしき問題は展開する。というのは、私はあれを見てないのだが、その上演を録音したらしいレコードを買い求めて、テキストを見ながら聞いていると、重大なことを発見したのである。歌詞がテキストと舞台とたいへんに違うところが多い。沖縄芝居にはいわゆる口立て芝居が多いので、その悪い影響であろうと思うが、どれがオリジナルな歌詞なのかわからなくなっており、苦にたいする意識がきわめて低いことを思わせるものがある。国立劇場での出来栄がどうであつたかにかかわらず、琉球歌劇の将来にはたして色あせぬ光栄が保てるものであるかどうか、問題にしてもよい。

1

古典音楽、古典舞踊、古典劇の分野では、型がきびしく意識されている。ここでは劇に話題をしぼるが、貞の御冠船（一八六六年、尚泰王冊封のとき）のときのパターンが継承されている、といわれる。具体的には、御冠船役者であつた小椋按司、^{おぐらあんじ} 諺谷山親雲上などというひとたちが玉城盛重、渡嘉敷守良などという明治役者たちに伝授したものが、それだということになる。しかし、いつのまにか細部の演技に差がでており、今日生存中の長老幾人かの芸のどれが正統であるかの論議が生じる所以である。たとえば玉城朝薫作五番中の『二重敵討』のなかの有名な^{あまわり} 阿麻和利の七目付の演技で、前につきだしてふまた足の爪先は地につけているのか天をさしているのか、という議論がある。舞踊にもこのような型の不斉が問題になり、官僚的に統制するわけにもいかず、ひところはコンクールの審査の便宜上これを新聞社で芸能人の協力をえて統一しようという努力もなされたが、結局はものにならず、それぞれの流儀を固守するということが、つまりは家元制のようなものをつくることになった。もともと家元制のなかつた琉球芸能に、こうして最近家元制ができた。

これが芸能そのものの発展のためにどのような意味をもつか。私の意見を結論的にいつてしまえば、芸の発展とは何の関係もないと思う。型の固守がこれによつて約束されたともいえないし、創造を促進するともいえない。型の形骸におけるセクシヨナリズムにすぎないだろうし、その将来は、御冠船というひとつの流れから今日まで^{わか} 岐れてきた系統発生のようなものを、さらに多岐でくりかえすだけであろう。

そしてどれが生き残るか。どの型がうけつがれるのか。単純な論理ながら、沖縄のこころを最もよく表現し、どの時代にもうけいられるものが残る、ということなのであろう。

2

4

今日、沖縄の芸能は第三の変革期にさしかかっている、とみることができよう。第一のそれは、十八世紀王朝に古典のパターンが創造されたとき、第二のそれは、明治にそれが庶民の前におりてきたとき、第三のいまは、いわゆる現代的な国際交流がしげくなって、人間性にメカニズムや情報化のある変革がなされようとし、それに応じて新しい詩や音楽や絵が生まれつつある時代である。このような時代に、芸能の世界においても、なんらかの創作がおこなわれることは、じゅうぶん必然性のあることである。

実際に、沖縄芸能の世界でいくつかのアレンジメントや創作がなされた。そのなかのどれが、あるいはいくつか、あたらしい古典として残っていくか、が今日のひとつの問題である。一方では、創作しないではおれない衝動をもち、一方では型をくずすまいという古典意識をもつ。この二つは、本来は矛盾しないはずのものであるにかかわらず、実際に一人の芸術家が彼自身の生の営みとして芸を生むとき、みずから両者の選択に迷う、あるいはどれかにこだわりすぎる場合が多い。享受するがわとしては、あるときは「また古典か」といながらも、別の機会に軽率な創作に出会ったときは「やはり古典はよい」とふりかえることになり

もなる。

本来芸術家としての素質をもって生まれたひとであるならば、旧来の型をぬけて創作したい意欲にかられるはずである。が、年ふりて完成度の高い古典作品をこえることが難しいのである。ある舞踊家が、かつてそのさかんな試みがあったにもかかわらず、ほとんど落伍して、その創作らしいものはすでに消えた。そしていま、ほとんどの舞踊家が、古典の枠にとじこもっている。はみだすのが怖いであろう、と私はみている。一歩はみだしたら、茫洋とした大海へ冒険に出るようなものであるからだ。古典にしがみついております、その完成度にささえられて安全、ということがある。ただ、古典の枠にとじこもつていても、型の形骸のなかで腐ってしまうということがある。私たちは、今日の沖縄芸能に、それをおそれているのだ。

歌劇の崩れについて、さきに書いたが、あの崩れが創作に類して意識的なアレンジメントであるならば、それは時をへたのちの享受者によって、正当に評価されるであろう。しかし、いまのところ、このような崩れは、御冠船の伝統におけるきびしい型の規範がないところからくる、近代的怠慢にぞくする傾きがつよい。これは似而非発展である。

古典の創造的あるいは発展的継承とは、どのようなことであるのか。たびたび設問されることであるが、具体的にこたえることはきわめて難しい。私はここに、ひとつの考えを試みたい。これは書え話のかたちをとる。

最近、家兄が小さなビジネス・ホテルをつくることになって、その家号を考えろ、という。「沖縄的な名前を考える」という。私はひとりの頭のなかでブレイン・ストーミングを試みて、でいご、あだん、紅型、織、守札、みやらび、エトセトラと、メモしてみた。が、どれをみても酒場のイメージしかうかんでこないのである。そして、これらの言葉の本来の清楚なイメージをよびおこそうとつとめると、那覇のとまんなかのこみつほいエネルギーッシュなビジネス・ホテルにはふさわしくなくなるのである。兄が業をにやして言った――「沖縄的にこだわらなくていいよ。私はいくらか気がらくになりながら、それでもできることなら、と構えているうちに、ふと浮かんだのが、「白光荘」という名前であった。」白光 “のイメージは、考えてみると、私がよく小説のなかにつかうもので、沖縄の風景描写において、私にとって欠かせないものになっている。そして、このなかには、なんとなく茫洋とした沖縄的人間のセンチメントもはいつているように思う。しかも、既成の伝統パターンにはまだないのである。

結局「白光荘」にきまつた――という話は、ここではどうでもよいことであつて、ここで私がいたいのは、伝統に乗りながら既成のパターンのなかで腐らないようにするためのアクションとは、どのようなものが、ということである。がもうひとつ言わねばならない。この、白光 “のイメージを、「伝統的にして新しい」と私は我田引水で規定したが、これははたして他人にみとめてもらえるものであるか、また後世にもみとめてもらえるものであるか、まだ評価は完成していない、ということである。思えば、きわめてエネルギーッシュで孤独なもの――それが、伝統の創造的継承ということなのであろう。

組踊「執心鐘入」

若松

二十日夜の暗さ

道迷てをたん

御情の宿に

しばし休ま

宿の女

約束の御行合や

だにすまたしちやれ

袖のふやはせど

御縁さらめ

宿の女

まれの御行合さらめ

あまく片時も

起きれきれ、里よ

語らひばしやの

若松

御縁てす知らぬ

恋の道知らぬ

しばし侍らかねる

夜明け白雲

若松

今日のは一御行合に

語る事ないさめ

楽典

I

1. ~4.の問いに答えなさい。

- ① 長6度 ② 完全4度 ③ 増6度 ④ 短7度 ⑤ 減5度

- ⑥ 増2度 ⑦ 短3度 ⑧ 増5度 ⑨ 長3度 ⑩ 減7度

- 指定された音程の音を、①~⑤は各音の上方に、⑥~⑩は下方に全音符で書きなさい。
- ①~⑤の各音程の転回音程を答えなさい。
- 例にならって、①②③⑦⑧の各音符の上にそれぞれ指定された和音を解答用紙の譜表上に作りなさい。
 例 ⑥の上に長三和音 a ①の上に短三和音 b ②の上に属七の和音
 c ③の上に増三和音 d ⑦の上に減三和音 e ⑧の上に長三和音
- 前問3.で作られた和音の各音が音階中に含まれる調すべてを、それぞれの解答欄にドイツ語で答えなさい。ただし短調は和声短音階のみとする。

II

次の①~⑩の楽語・音楽用語の意味を答えなさい。

- ① con moto ② tempo rubato ③ meno mosso ④ leggiero ⑤ espressivo
 ⑥ stringendo ⑦ smorzando ⑧ allargando ⑨ con passione ⑩ sostenuto

III

次の楽語・音楽用語について説明しなさい。(楽譜など具体例を使って説明してもよい。)

- ① unison ② 変拍子 ③ 五音音階 ④ cadenza ⑤ colla parte

I. 次の楽譜は、村井邦彦作曲「翼をください」の歌唱部分の旋律である。以下の問いに答えなさい。

- (1) 楽譜中の あ～え が示す音程は何度か。解答用紙の例にならって書きなさい。
- (2) この曲は何調か。次の語群から選びなさい。
 ～長調、二長調、変ロ長調、ロ長調、ハ長調
- (3) この曲は何拍子か。次の語群から選びなさい。
 4分の2拍子、4分の3拍子、4分の4拍子、8分の6拍子、8分の3拍子
- (4) 楽譜中の お の音符の名称を書きなさい。
- (5) 楽譜中の か～き が示す記号の読みと意味を書きなさい。
- (6) この楽譜を反復記号の指定どおりに演奏すると、何小節を要するか。

(7) この楽譜を ♯ = 96 のテンポで演奏すると、所要時間はどれほどか。計算式を書いたうえで所要時間を答えなさい。小数点以下は四捨五入し、速度の変化は無視すること。

(8) この楽譜の最初の行(5小節)を全音高い調に移調して、解答用紙の五線に書きなさい。

II. 次の問いに答えなさい。

(1) 解答用紙の五線にト音記号を書き入れたうえで、次の音階を全音符で、調号を使わずに書きなさい。

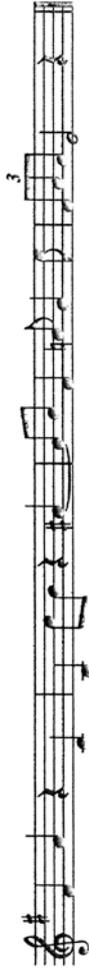
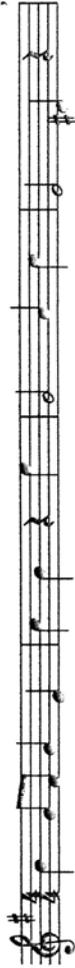
- ① ～長調
- ② ホ短調（和声的短音階）

(2) D音をもとにしたドミナント・セブンス・コードについて、D音以外の三つの音名を答えなさい。

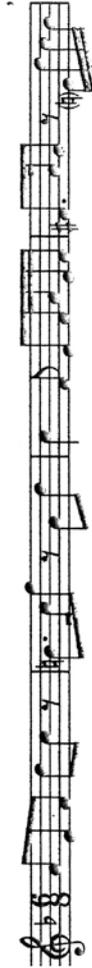
III. 次の問いの中から、5つを選んで答えなさい。なお、選んだ問いの番号を解答用紙の所定の欄に書くこと。

- (1) ～長調の属調は何調か。
- (2) オーケストラに使われる木管楽器のうち、フルート以外の楽器名を3つ書きなさい。
- (3) 次の楽語のうち、音の強弱を指示する語を1つ選んで書きなさい。
 Allegretto *diminuendo* D. S. *legato*
- (4) 次の名称のうち、日本の音楽や芸能ではないものを2つ選びなさい。
 義太夫節、長唄、交響曲、尺八、京劇、狂言、江差追分
- (5) オペラが上演されるまでにはどのような人たちが関わっているか。下記の例以外に必要な役割（スタッフ等）を2つ書きなさい。例：「歌手」「衣裳係」
- (6) 琉球箏曲の本調子の調弦のとき、三線の女弦（工）の音高と合わせる箏の弦の名を答えなさい。
- (7) 三線の二揚調子において、男弦をB（ロ音）の高さに合わせると、中弦の高さはどの音名にあたるか答えなさい。
- (8) 三線の本調子において、男弦と中弦の音程は何度か。
- (9) 琉球芸能のうち、歌三線とせりふと所作、踊りによって構成される芸能の名称を1つ答えなさい。
- (10) 《かぎやで風節》の歌詞を書きなさい。解答欄に書ききれない歌詞は余白に書くこと。

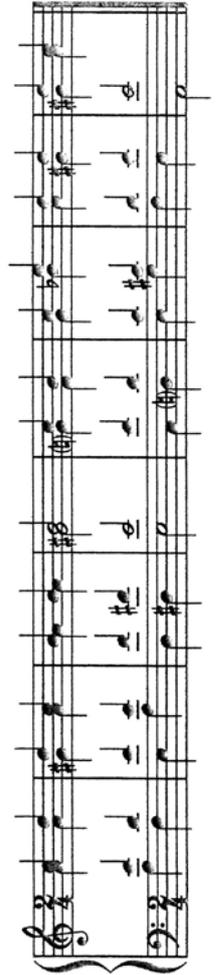
旋律 e-moll
4分の4拍子 8小節



旋律 F-dur 8分の6拍子 8小節



四声体和声 a-moll 4分の2拍子 8小節



平成29年度沖縄県立芸術大学音楽学部推薦入学試験

聴音

① 旋律 e-moll 4分の4拍子 8小節
実施方法

主和音と拍子

通奏1回

前半3回

通奏1回

後半3回

通奏1回

② 旋律 F-dur 8分の6拍子 8小節
実施方法

主和音と拍子

通奏1回

前半3回

通奏1回

後半3回

通奏1回

③ 四声体和声 a-moll 4分の2拍子 8小節
実施方法

主和音と拍子

通奏7回

推薦入試 新曲視唱出題例

音楽学コース、作曲理論コースは「新曲視唱」を課す。
声乐コース・弦楽コース・管打楽コースは、「聴音」「新曲視唱」のいずれかを選択すること。

1. 予見前に曲の主和音を与える。(予見時間1分30秒)
2. 視唱の前に、曲の調の和声短音階上行形を歌うこと。

$\text{♩} = 50 \text{ ca.}$

mf

legato

4

7

10

f *sub.p* *senza rall.* -----

3

平成 30 年度

試 験 曲

音楽学部個別学力検査等

平成 29 年 7 月 発行



沖縄県立芸術大学

〒903-8602

沖縄県那覇市首里当蔵町 1 丁目 4 番地

電話 098-882-5058 (教務学生課)

<http://www.okigei.ac.jp>

JASRAC 出 1705780-701

教育芸術社「平成 24 年度～中学生の音楽 2・3 上」

大城立裕「沖縄と演劇-その伝統と変革-」(「沖縄演劇の魅力」沖縄タイムス社、1990 年)